

N I Eの趣旨を理解し、学校に一層の普及活動を



長野県N I E推進協議会会長

信州大学教育学部教授 松本 浩毅

今日のような情報過多の時代には必要な情報（資料、以下略す）を必要な時に適切に活用できる能力を有することは極めて重要な資質の一つである。しかし、一方では社会が要求する高度な資質育成には答えていない傾向がある。必要な情報はいつでも手に入るし、インターネットを活用すればいとも簡単に集まるのである。情報が常に巷に流れている社会では、情報の収集と蓄積はさほど困難ではなさそうだ。

例えば、学生にある課題を提示し研究発表を要求したところ、学生は、短期間にテーマを設定しそれについて研究を深めレポートにまとめようとする。いとも簡単に情報を集めてしまうのである。そんなに簡単にあつまるのかを聞くと、パソコンの検索機能やインターネットを利用して関係する情報をたくさん集めることが可能であるという。ところが集められた情報をしっかりと読解し、自分の頭を使って思考判断し、分析・整理し、その意味するところを理解した上で、研究に生かしているかということになると話は別である。どこかで煩雑な面倒臭い手続きや過程を省略しているようである。したがって、この情報の持つ価値はどこにあるのか、なぜこの情報はあなたにとって貴重なのか、この情報からどんなことが言えるのか等々の質問をすると明解な回答が返ってこないのである。

これらのことから、今どのような能力や態度が求められているのかを考えてみたい。若い頃の私は、情報収集の作業がとても大変であった。だから集めた情報や資料はとても大切にし、それを十分読みこなし分析して整理しなおかつ自分の考えや意見を付け加えて最大限に活用したものである。つまり今の学生は、情報や資料は集めるがそれらの内容の意図することや何を訴えようとしているのかなどを十分分析しないで、理解しないで簡単に利用していることに問題があるのではないか。聞くとところによると彼らは小中高校時代にあまり新聞を読まない、活用しなできた傾向が強い。即時性の強いテレビやインターネットの情報に頼りがちになっている状況が頭に浮かぶのである。

新聞記事の素晴らしいところは落ち着いてじっくり読めることにある。また、他種類の新聞記事の比較も可能である。さらに、必要な情報はテーマ毎に切り抜いて収集し蓄積できるという点にある。特集記事などでは、世代の異なる多くの読者の考えや意見を聞くこともできるのである。読み方によっては魅力満載の生きている情報箱である。

21世紀に生きる青少年に求められる資質は極めて多い。その中でも情報リテラシーの育成は学校教育において不可欠な課題である。活字離れの傾向が強いこの時代に、なじみが薄いだろうが、読みにくいだろうが、取り付きにくいだろうが一度新聞記事をじっくり読んでみては如何であろうか。身近に起こっている様々な出来事がおぼろげながらも理解できればしめたもの。新聞に興味・関心が湧くのはそう遠いことでない。

これからの学校教育では、小さいときから新聞に慣れ親しむ習慣を付けることが大切であると考えている。その意味でN I E活動は重要な役割を果たすものである。

本年も長野県では新たな実践校が決定し、各学校関係教諭の努力で創意工夫された素晴らしい実践が展開されている。この活動は、単に指定校だけでなくすべての学校に普及し発展して欲しいと考える。今後ともN I E活動に多大なご理解とご協力をお願いしたい。

最後になりましたが、長野県教育委員会、各教育事務所、信濃教育会並びに指定校の校長先生はじめ教職員、また各新聞社など関係各位のご努力に心から感謝申し上げますとともに長野県N I E推進協議会のさらなる発展を願っております。